NL 野崎造園新聞

2019年. 新年号　第98号

発行所　株式会社　野崎造園（本社）

〒203-0044　東京都東久留米市柳窪 4-14-22

Tel 042-471-4635〈代〉 Fax 042-471-4856

http://www.nozaki-zoen.co.jp

練馬営業所
練馬区上石神井 4-27-15
レジオンス上石神井 210
Tel　03-5927-0339

さいたま営業所
埼玉県さいたま市桜区
下大久保 1127-1-204
Tel　048-851-6418

～今月の花木～



カンツバキ　寒椿

ツバキ科　常緑低木　園芸品種

サザンカによく似ておりツバキとサザンカの交配種とされている。樹高が低く植込みや生垣などの利用でよく見かける。冬を彩る花木の一つである。

昭和～平成の植物

ついに平成も最後の年を迎えました。中年以降の昭和を知る世代は、時間経過と共に時の移り変わりが早く進む感覚も加わり、平成の約30年間は早かったと感じている方も多いかと思います。時代を振り返る様々な特集などを5月1日の改元にかけて見ることが多くなり、世の中の出来事や流行り廃りの推移を改めて認識する事がこの先数か月は多くあるかと思います。

植物に関する分野でも時代による流行り廃りの変遷が見られました。身近な庭木（植木）から街路樹などの社会的インフラを担っている植物、外来種や地球環境、特に気候変動による影響など様々な場面で変化が起こっています。時代の変化を振り返りつつ、この先将来のあり方などについて少し考えてみました。

時の移り変わりや人生の年輪を重ねるなかで、人の嗜好や考え方、価値観が変化してゆくことは世の常です。最近は社会の変化のスピードが早い、変化についていけないなどと言った声も耳にしますが、植物や造園の分野では他の分野に比べれば、まだ緩やかな気がしています。屋外での作業や一点一点かたちが異なり手仕事が多いこと、ＩＴ（情報技術）や自動化出来る作業の取り入れが余り進んでいないことが要因と思われます。

社会的にみれば少し時代に取り残され感のある分野ではありますが、昭和から平成にかけて、それなりに変化していると思うことがあります。

昭和から平成のはじめ位までの建売住宅では、狭い庭でも木を植えるのは当たり前で、ツゲの仕立物などを予め植栽して販売していたようです。現在の建売住宅では植栽が無く販売されているものが多くあります。一戸建てには必ず木を植えるといった価値観が時代とともに変化しています。

街路樹では、昭和の中頃までは成長が早く大きくなるプラタナスのような樹種が多く選ばれていましたが、現在ではそのような樹種は剪定費用がかさむなどの理由から減ってきており、代わりに成長が遅く余り大きくならずに花も咲くハナミズキのような樹種がよく植えられています。

個人の家でも街路樹のような公共の場でも、植栽にかける手間や費用を極力減らしたい風潮は以前より増してきている気がします。より効率的な生活や社会インフラの維持管理を求めることは当然で大切な事ですが、そのために身近なみどりのボリュウムが減ることには疑問を感じます。

近年は地球の温暖化による異常気象が起因となる自然災害が日本でも増えつつあり、昨年も豪雨や台風、猛暑、豪雪などで多くの人が苦しみを受けました。温暖化の原因とされる温室効果ガス（二酸化炭素）の固定や、都市のヒートアイランド現象の緩和に樹木など植物が果たす役割は大切なことは以前より言われています。身近なみどりを増やしたところで地球的規模の温暖化防止にすぐに効果が表れることは難しいのが現実ですが、樹冠が大きい樹木で真夏に地表に日陰をつくることは、ヒートアイランド現象の緩和や人が直接受ける熱射からの負荷を減らす効果があります。

みどりを増やす取組みが家々や街中で増えることは、世の中のみどりに対する個々の理解が高まり、やがては地域や地球環境の改善につながる可能性はあります。

しかし、ただ単にみどりを増やすだけでは樹木による落葉などで困っている人には理解を得ることは出来ません。様々な立場や価値観のある人がいることに意識や配慮をした、みどりに対する計画や管理が大切です。

↘

昭和～平成にかけての、庭木（植木）の流行

仕立物

小さくても庭のあるような家では一家に一本、仕立物とよばれる常緑のツゲやマキ、マツなど人が曲げたり切ったりして仕立てた人工樹形の植木が昭和から平成のはじめまで、庭木として多く植えられていました。今では庭木として新しく植えられることは稀になっています。



ツゲの仕立物

自然樹形・花物・洋風

仕立物のような人工樹形への人々の飽き、自然樹形で花を楽しめ、建築の洋風化や狭い敷地でも巨木にならないハナミズキは昭和 50 年代後半にブームがあり、今でも根強い人気があります。庭木としての利用から最近では公園や街路樹など公共的な利用が多い樹木です。



ハナミズキ

コニファー

知名度の高さでは「ゴールドクレスト」が一番かと思いますが、今から 20 年前位にブームがあり、円錐形の樹形が好まれてか、様々な種類が植えられました。手入れを怠ると５ｍ以上になる品種もあり、大きくなりすぎて困っている声も聞くため、植付け時の樹種選びは重要です。



エレガンテシマ

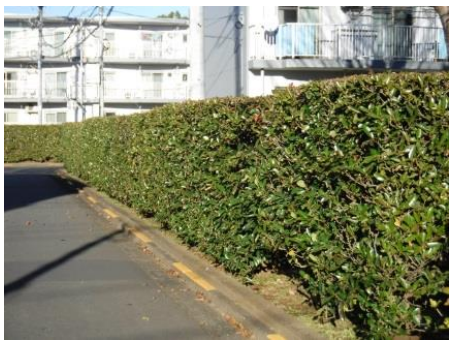
雑木【特に株立ち】

最近は「雑木の庭」がブームで本来野山に自生している今まで庭木としては見向きもされなかった木がよく売れています。アオダモ、アオハダ、ハイノキ、ツリバナなど、花は地味ながら株立ちで枝葉が自然に風にそよぐ感じのあるものに人気があります。



アオダモ

身近な植物から、時代の流れを意識してみる



サンゴジュ（昭和～）

葉に水分を多く含み防火樹にもなるためよく植えられていたが、害虫駆除に定期的な消毒が必要なため、最近は新たに植えることは少ない。



レッドロビン（平成初期～）

日本原産のカナメモチより葉が大きくゴマ色斑点病に強いとされるが、最近はこの病気の感染も見られるため、注意や対策が必要である。



ﾍﾞﾆﾊﾞﾅﾄｷﾜﾏﾝｻｸ（平成中期～）

葉色は赤紫色で花も咲き、病害虫にも強いことから近年生垣で見かけることが多い。

生垣の変遷

目隠しの効果を求めるには、枝葉が密に茂り、目標の高さまで成長することができる樹種が昔から選ばれてきました。単純に一年中緑色をしている樹種より、季節による葉色の変化や花が咲く、 単純な緑色ではない斑入りの葉や病害虫に強いとされる樹種が最近では選ばれる傾向が多くなってきています。

安定の3品種　何十年も根強い人気のある、ロングセラーな植木



ハナミズキ



ソヨゴ



モミジ

異なるケヤキ

普通のケヤキは扇形の樹形になります。「ムサシノケヤキ」は埼玉県で昭和 46 年に発見され枝振りが横に広がらず、すらっとした樹形です。街路樹など管理上枝があまり横に広がってほしくない箇所で時折見かけます。



普通のケヤキ



ムサシノケヤキ



ナガミヒナゲシ（長実雛芥子）

10 年位前から、東京近郊では目につくようになった気がする。道端に限らず最近は農地まで侵入しており、かわいい花をつけるが繁殖力旺盛な外来種である。



セイバンモロコシ（西播蜀黍）

昨年、自社の隅に生えているのを見つけてススキかと思っていたが穂の形が違い、調べると本種と判明した。空き地や河川敷、道路脇など、夏以降至る所で見かけた。

生態系への影響が懸念される、外来種の雑草

シ　マ　ト　ネ　リ　コ



常緑で小さくつやのある葉と風になびく軽やかさや比較的病害虫にも強いため、近年よく植えられている人気のある木です。玄関脇のシンボルツリー的存在で見かけることが多く、時折街路樹にも植栽されています。株立ち樹形が人気で多く流通していますが、単幹のものもあります。

原産地は沖縄や東南アジアで、寒さに弱いとされていますが関東以南地方では地植えでも育っています。

成長が早いため限られた敷地で育てるには剪定管理が欠かせません。将来にわたって人気が続くのか、病害虫の発生が問題になるかなど、気に留めていきたい木です。

街路樹再生中

杉並区にある中杉通りのケヤキは、昭和 29 年に地元の人々により苗木 119 本が植えられたのが始まりです。「ケヤキのトンネル」として名所にもなっていましたが、両側をビルに挟まれた樹木が樹高 20mにもなり下枝も少なく木のバランスが悪いことや、倒木などの事故の発生や弱った木も見られることから、将来的にケヤキのトンネルを守り続けるための施策がとられています。

樹木診断の結果等を踏まえ、倒木の恐れや生育の悪い木と両側の木に被圧された樹木を撤去し、１本１本の生育環境を広げ、残す木はやや太い枝まで含め樹高 15m程度で剪定していました。そこから新しく萌芽した枝で、枝の整理や剪定を実施して何年もかけ、以前よりバランスのよい美しい樹形を維持したケヤキのトンネルにしていこうとするものです。



2008 年 7 月　ケヤキのトンネルだった頃

※左右の写真の撮影箇所は異なっています



2014 年 11 月　剪定して、再生している途中

～当社では障害者、親と暮らすことが出来ない子供たちの施設（社会福祉法人）に皆様から頂いた書類の使用済み切手等を使い、支援活動をしています～